



新 提 案

PIコート PI-U

PIコート PI-U は2液硬化タイプのウレタン塗料をベースに、昨今問題視されている様々なウイルス感染に対して不活性化を促進させる抗ウイルス機能を有した塗料です。また長時間（塗膜性能参照）の持続性も保有しており、皆様の生活環境を守る予防策としてご提案いたします。

特 徵

1. 硬化剤を併用した常温乾燥タイプのため扱いやすい。
2. 抗ウイルス機能を有している。
3. 乾燥が早く、作業性に優れている。
4. 耐摩擦性、耐薬品汚染性、耐候性等の諸物性に優れている。
5. 特化則に抵触することがないため環境にやさしい。

使 用 方 法

1. 用途

主に屋内にて使用するもの（家具、建具、壁材等の建材やその他生活用品）への塗装を推奨いたします。

※床材などへの使用は長期にわたる性能の持続性の観点からご注意ください。

2. 塗料の種類及び荷姿

[種類]

年間統一タイプ：推奨環境温度 20～35℃

※冬場の使用にはTXシンナーの冬用を使用してご対応ください。

[艶]

7分消（規格値：グロス30±3）・10分消（規格値：グロス15±2）

※その他の艶に関して、艶調整用に0分消をご用意しております。

[荷姿]

A液（主剤）：15kg／3kg B液（硬化剤）：3kg／0.6kg

3. 配合比

A液：B液 = 5：1 ですから重量比で正確に配合して下さい。

※調合した後は反応が進むため、必ず使用する量を調合し使い切り、残液の再利用はしないようにしてください。



4. 稀釀

[ロール塗装の場合]

原液使用をご提案いたします。稀釀をする場合は、弊社の「TXシンナー」を5%ずつ添加して粘度調整してください。

[籠手刷毛・スプレー塗装等の場合]

稀釀はA:Bの調合済みに対してTXシンナーを70%~80%添加してください。

5. 塗布量（使用量）

[ロール塗装の場合]

20g~30g/m²の範囲で塗布してください。

[籠手刷毛・スプレー塗装等の場合]

40g~50g/m²の範囲で塗布してください。

※スプレーを使用する場合 1.0mm~1.3mmの口径のガンを使用することをご提案します。

※上記記載の塗布量（使用量）より厚く塗りすぎてしまうと塗膜の性能が損なわれる恐れがあるためご注意ください。

6. その他使用上の注意

- ・十分換気した環境にてご使用ください。
- ・塗装前に下地を研磨や脱脂を行い、油分や埃、汚れなどを十分に取り除いてご使用ください。
- ・塗料は冷暗所にて保管するなど、保管方法に注意してください。
- ・その他製品安全データシート（SDS）を参照のうえご使用ください。

塗料情報

		性 能	備 考
粘度	A 液	50±10秒	フォートカップ [®] No. 4
	B 液	10±1.0秒	25°C
	配合時	11±1.5秒	5:1:4 TXシンナー No. 13
可使用時間		4~6時間	25°C
乾燥	指 触	15分以内	20μ wetバークター
	指 壓	40分以内	ガラス板上



塗膜性能

項目	条件	性能結果	
硬度	鉛筆硬度	H	
付着性	碁盤目試験	100/100	
耐熱性	80°C × 400H	割れ、剥離、膨れ無し	
耐湿性	50°C • 95% × 240H	割れ、剥離、膨れ無し	
耐寒熱サイクル性	80°C × 2H ⇄ -20°C × 2H 10サイクル	割れ、剥離、膨れ無し	
耐摩擦性	酸性汗布	1kgf × 500回	
	アルカリ汗布	1kgf × 500回	
	乾布	2kgf × 200回	
耐衝撃性	300gf × 5cm 以上	割れ、剥離無し	
促進耐光性(外観異常)	キセノン × 300H	白化、割れ、剥離等無し	
促進耐光性(変退色)	キセノン × 24H	△E<3	
耐薬品汚染性	蒸留水	55°C × 4H	外観異常無し
	10%水酸化ナトリウム	55°C × 4H	外観異常無し
	10%硫酸	20°C × 24H	外観異常無し
	芳香剤	55°C × 4H	外観異常無し
	ヘアリキッド	80°C × 168H	外観異常無し
	日焼止めクリーム	55°C × 4H	外観異常無し
※抗ウイルス性 (抗ウイルス活性値 R) SIAA認定値 R ≥ 2.0	ウイルス A 耐水区分 0	ISO 21702 法	R=3.9
	ウイルス A 耐光区分 1	ISO 21702 法	R=3.5
	ウイルス B 耐水区分 0	ISO 21702 法	R ≥ 4.3
	ウイルス B 耐光区分 1	ISO 21702 法	R=4.2

- (注意) • 上記性能は推奨する塗布条件、使用方法に準じた場合に限ります。
- 上記性能は測定値であり、保証するものではございません。
 - 下地の状態によって性能に差が生じる場合がございます。
 - 薬機法の関係上、特定ウイルスの名前を表記することができないため、ウイルス A (エンペロープあり)、ウイルス B (エンペロープなし) と表記しております。
 - 抗ウイルス性評価機関：(一財)日本繊維製品品質技術センター